

中学校 第1学年 道徳科 学習指導案

北海道教育大学附属
釧路義務教育学校後期課程
教諭 松永 悠佑

主題名 法やきまりの意義

教材名 12 ルールとマナー（1時間）

内容項目 C 遵法精神、公德心

本時のねらい ルールとマナーについて、多面的・多角的に捉え考えることを通して、インターネット上のコミュニティにおいても法やきまりにより秩序が保たれていることを理解し、自他の権利を尊重しながら、社会の秩序と規律を高めていこうとする判断力を育てる。

指導時期 9月頃

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

1 「さし絵・写真」を活用した場面の把握

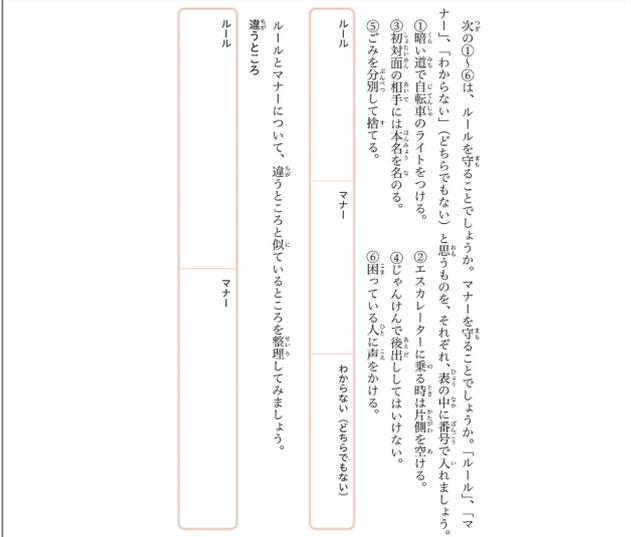
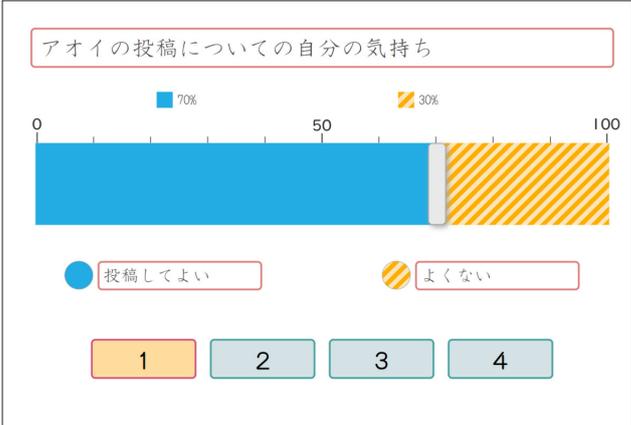
p.65の「アオイの投稿」をスクリーンに映すことで、考えさせたい場面に注目させることができると考える。また、その後の流れを見せないようにすることで、生徒は先入観をもたずに「アオイの投稿」の問題点について考えることができる。

2 「心情メーター」や「思考ツール」、「学びの道しるべ」を活用した、生徒の考えの可視化

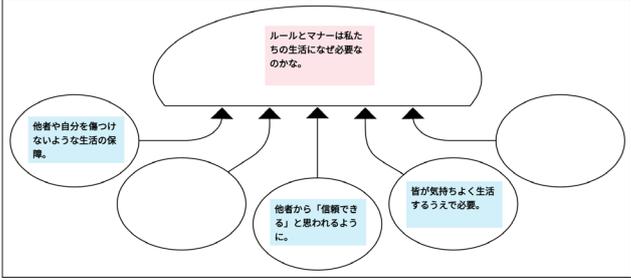
「心情メーター」を使うことで、生徒自身が「アオイの投稿」を「投稿してよい」と思うかと「よくない」と思うか、判断の比率を視覚的に把握することができる。また、「思考ツール」や「学びの道しるべ」を活用して、自分の考えを視覚的に整理し、さらに、感じ方の違いや理由などを比較・交流する場面を意図的に設定することで、議論の活性化が期待できる。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 <p>1. ルールとマナーの必要性を意識させるとともに、それらを自身の日常生活と関連づけて、想起させる。</p> <p>T：今日は、よく似た意味合いの言葉として使われることが多い「ルール」と「マナー」について考えてみたいと思います。次の①～⑥を番号で表に入れ、違うところと似ているところを整理してみよう。</p>	 <p>●「指導者用デジタル教材」p.64を「ズーム」して、スクリーンに映す。</p> <p>●「ルールとマナー」について生徒が発表した考えを、「ペン」を使い、書き込むことで共有する。</p>

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<p>◎：ルール ①④⑤ マナー ⑥ わからない（どちらでもない）②③</p> <p>◎：ルールは強制力がある。 ルールには罰則があるときもある。 マナーは守るとよい。人の感覚によって左右されるもの。 どちらも守れば、みんなよい気持ちになる。</p>	
展開	<p>2. 「ルールとマナー」のインターネット上の投稿を読み、何が問題なのかを考える。</p> <p>T：アオイさんは次のような投稿をしたけれど、よいのかな。</p> <p>◎：うーん。</p> <p>T：迷うところがありそうですね。その迷う気持ちを見える化してみよう。</p> <p>T：みんなの気持ちを見てもみよう。なぜこのような比率にしたのかな。</p> <p>◎：マリナの写真を上げているのが許可を得ているのか気になるけれど、友達だし、よいのでは。</p> <p>◎：マリナがつらい過去を経験していることを勝手に公開していいのか。</p>	<p>●「指導者用デジタル教材」 p.65の「アオイの投稿」部分をクリックし、「さし絵・写真」を表示する。</p>  <p>●「指導者用デジタル教材」の「心情メーター」を立ち上げ、「アオイの投稿」について「投稿してよい」「よくない」の気持ちを可視化するために、教師が例を示す。</p>  <p>●「学習者用デジタル教材」のツールバーから「心情メーター」を立ち上げ、「アオイの投稿」について「投稿してよい」「よくない」の気持ちのバランスを可視化する。</p>

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	<p>T：マリナが学校に来なくなり、保護者は弁護士に相談することを考えています。「社会的なルール」の視点で、アオイは罰を受けるべきか、その必要がないかを考えよう。</p> <p>T：このやりとりで問題になりそうな部分はあるかな。「ふせん」に理由を書いて、貼り付けよう。</p> <p>C：受けるべき。事実かどうか分からないことを書いたり、個人の名前を出していたりして、特定の個人が被害を受ける可能性があるから。</p> <p>C：受ける必要がない。SNS上のやり取りだし、このようなやり取りは日常会話でも行われているから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援ソフトウェアを活用して生徒の「心情メーター」を集約して提示し、考えの共有を図る。 ● 「学習者用デジタル教材」の「さし絵・写真」の二つめと三つめをクリックする。 ● 「学習者用デジタル教材」の「どうぐ」にある「ふせん」を用いて、SNS上でのルール違反と考えられる部分に、理由を記入して貼り付ける。 ● 貼り付けた理由をグループで共有し、罰を受けるべきか、その必要がないかを考える。  
	<p>T：ルールとマナーは私たちの生活になぜ必要なのかな。</p> <p>C：皆が安心安全な生活を送るには、他者や自分を傷つけないような生活を保障するルールや、気持ちよく生活するうえでのマナーが必要だから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学習者用デジタル教材」の「思考ツール」をクリックし、「クラゲチャート」を表示する。なぜ「ルールやマナー」が必要なのかをまとめていく。 ● 「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」を使い、意見を集約し、クラス全体での共有を図る。

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	<p>T：ルールとマナーについて、私たちはどのようなことを意識して生活すればよいのかな。</p> <p>C：相手がどう感じるかを考えながら、マナーを大切に過ごしたい。</p> <p>C：ルールとマナーの違いを把握しながら、やっていいことと悪いことをしっかり考えながら生活していきたい。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ●「学習者用デジタル教材」の「学びの道しるべ」をクリックし、「ペン」や「ふせん」を使って記入させる。また、「ワークシート」を活用して考えを記入させることも考えられる。 ●生徒を数名指名し、発表内容を「指導者用デジタル教材」に書き込み、全体に共有する。
終末	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>T：授業を通して感じたこと、考えたことをまとめよう。</p> <p>C：ルールやマナーを守ることで、人に信頼されたり、トラブルを避けたり、自分も周りも気持ちよく安心して過ごしたりすることができるようになるので、ルールやマナーについて学び、学校でもSNS上でも気をつけていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ふだん、使用している学習支援ソフトウェアを用いてもよい。

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

■指導者側の効果・メリット

【説明や提示をスムーズに行うことができ、板書の効率化や時間短縮につながる】

「アオイの投稿」などの「さし絵・写真」を適切なタイミングで提示できるので、黒板に拡大印刷したものを掲示しなくてもよくなり、板書を短い時間で効率的に行うことができた。また、生徒が先入観をもたずに考えたり、じっくり考える時間を確保したりすることにもつながった。

■学習者側の効果・メリット

【視覚的な提示で理解しやすくなり、学習意欲の向上につながる】

「さし絵・写真」に「ふせん」を貼り付けることができるので、自分の考えを視覚的にわかりやすく整理することができた。

また、「心情メーター」を活用することで自分や他者の考えを可視化することができ、学びを深めることができた。

■指導者側・学習者側双方の効果・メリット

【自分の考えが整理しやすくなり、他の人との共有もスムーズになる】

「思考ツール」や「学びの道しるべ」を使いながら考えることで、自分や他の人の考えを視覚的に整理したり表現したりしやすくなった。さらに、生徒が考えたことを「指導者用デジタル教材」を使って集約し、学級全体で共有することで、各々の気づきや考えが全体に広がり、学びがよりいっそう深まった。